

学内のリフレッシュスペースと交流スペース： くいだおれ派？バーベキュー派？

照井直人

基礎医学系助教

文部省調査研究協力者会議の概要

文部省の「今後の国立大学等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議」は、今後の国立大学等施設を着実に整備充実するための基本的な課題と具体的な推進方策について審議を行い、報告書「国立大学等施設の整備充実に向けて－未来を拓くキャンパスの創造－」を平成十年三月に取りまとめました。その中のキャンパス環境の整備の方策のひとつとして、「キャンパス環境はすべての教育研究活動の基盤であり、キャンパス全体がコミュニケーションの場として機能することにより、教育研究の活性化を図ることができる。また、キャンパス環境は、学生等の生活の場でもある。このような観点に立ち、知的創造活動を促す多様なコミュニケーションの場や、キャンパス生活を支える共用施設、福利施設等の充実、豊かな屋外環境の整備を図り、キャンパスアメニティの形成について常

に配慮する必要がある。」と記しています。

また、同会議は平成十二年五月の「国立大学等施設に関する点検・評価について」の中間まとめで、「教育研究を支える基盤施設として、利用効率、投資効果等の効率性を中心とした側面を判断基準として点検・評価を実施することが重要であることはいうまでもないが、一方、国立大学等施設については、必ずしも効率性等一定の評価尺度だけで測り得ないものとして、アメニティ、シンボル性等良好なキャンパスを形成する重要な構成要素が存在することに留意する必要がある。」と記しています。そして、キャンパス・アメニティの形成・維持のための施設整備・活用に関する設定目標として、「キャンパス生活関係スペースの確保・維持：キャンパス環境が学生等の生活の場でもあるとの観点から、福利厚生、課外活動、運動、文化活動等の施設につい

て、必要となる空間の規模・機能等を整理する。また、リフレッシュスペース、ラウンジ等建物内におけるコミュニケーションを生み出す場について必要となる空間の規模等を整理する。」「屋外環境等の充実：キャンパス全体がコミュニケーションの場として機能し、魅力ある豊かな環境にするために、必要となる緑地等の屋外環境、保存建物等シンボリック空間等について整理する。」を挙げています。また、「各国立大学等で展開される教育研究活動等の特性に応じて検証すべき大学等の特性に応じた施設の現状事項」として、「屋外環境の状況：キャンパスアメニティの形成の観点から、緑空間の状況、広場等コミュニケーションの場の整備状況、維持管理状況について、キャンパス内各施設との関係も含め、現状を検証する。」「快適性の観点からの状況：キャンパスは教育研究活動を展開する場であるとともに、教員、学生の生活の場であり、人間的な活動が行われる場である。このことから様々な活動が快適に展開できるよう、快適性の観点からキャンパス全体や屋外環境、各施設等個々の空間について検証する。また、食堂、課外活動施設等の福利施設、運動施設、文化施設等の整備状況、利用状況等について検証する。」「リフレッシュ空間：建物内外に

において、利用者に対してゆとりと潤いを与え、リラックスしたコミュニケーションを図ることのできるリフレッシュのための空間について、整備状況、利用状況や利用者の意識等の状況を検証する。」を挙げています。

私の体験と提案

さてさて本稿では、前記のような現・文部科学省の審議内容を専ら自分に都合良く解釈し、「学内でバーベキューパーティーをやってもいい場所の指定とその利用規定の作成」について提案したいと思います。

「コミュニケーション＝バーベキューパーティーか?」「キャンパス・アメニティ＝バーベキュー場か?」いいえ、どちらも違います。「学内各所にバーベキュー場が必要なのか?」説得力のある答えには窮してしまいます。バーベキューにこだわるのは、趣味の問題であることも重々理解しています。しかしまあ、どうぞ貴重な紙面とお時間をお貸し下さい。

昨年の春、私は医学専門学群1年生の授業「フレッシュマンセミナー」の一貫として、バーベキューパーティーを医学系学系棟協の藤棚（実際はクワイ棚）とベンチのあるスペースで開催しました



ことは、火災予防条例で定められています。この規定が、平常時におけるたき火の禁止や制限の一般的な根拠となるようです。しかし、ここで「たき火」というのは、その目的のいかんを問わず火を使用するための本来の設備・器具を用い
ないで火を焚く形態一般を指すそうです。つまり、関係法令に準拠した「利用規定」を遵守し、「指定場所」でバーベキューコンロのような「火を利用するための設備や器具」を使用することは不可能とは言い切れないのではないのでしょうか。

「くいだおれ」に繰り出すのもそれはそれで楽しいことです。調理設備を備えた室内のコミュニケーション施設が学内各所にあれば理想的ですが、そのような施設を設けることは不可能でしょう。森林公園を思わせる景観の広大な敷地は、本学のシンボルとも言えます。これを教職員や学生のためのリフレッシュやコミュニケーションの場として活用できないのでしょうか。バーベキューコンロなどは教職員用のレクリエーション用具も利用でき、設備の新設は必要としません。管理者側の黙認という形ではなく、利用者の自己責任に則った「教職員・学生のリフレッシュスペースと交流スペース」の選択肢を増やすことも重要だと思いま

す。関係各局の方々、どうぞ御考慮下さい。

参考：

文部科学省審議会情報（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/index.htm）

財団法人全国消防協会 教養誌「ほのお」
1997年8月号」

（てるいなおひと 自律神経生理学）